

愛郷  
無限

土屋館  
どや  
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街  
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035  
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2014年12月4日号 NO.500

写真提供：大仙市

## Subject：500号は男の生き方・逝き方

約一月半のご無沙汰でございました。このところ来年に向けた新しいプロジェクト進行を理由にしてドヤツをサボっている状況でした。

銀幕のスターであり、日本男性の理想をこの世に現したような二人、高倉健さんと菅原文太さんが続けざまに世を去られました。その全盛期をリアルタイムには知るよしがないものの、高齢になっても尚その人となり、生き様などの様々な面で、多くの人を魅了し続けたお二人には尊敬の念を抱かずにおれません。

### ◆高倉健さん

事務所である高倉プロモーションが、高倉健さんがお亡くなりになったことマスコミ各社へ告知する事務所コメントの文章が素晴らしいものでした。生前よりご本人が用意されていたものか、或いは健さんの薫陶と超一流の心遣いをしっかりと受け継いでいるであろう事務所スタッフが書かれたものかは、私には知るよしもありません。

次項に文章を転載させていただきます。

本当に短い文章ですが、その気持ちが十二分に伝わって参ります。

我が師は、俺も死んだらこれで行こう！と仰っていましたが、私も見習いたいものです。

### ◆菅原文太さん

以前のドヤツで、菅原さんの著作・対談集を何度か紹介させていただきました。私にとってはトラック野郎でも任侠映画のスターでもなく、希有な有志の人でした。仙台一高出身のインテリ秀才にして狭義と反骨の人。ここしばらく、歯車がゆがんだ現世と日本人を憂い、山梨県の農園で無農薬農業に専念する傍らで、信念を曲げずに反原発を、反戦争を伝え続け、孤軍奮闘する人。人気商売である芸能界に於いて、評価や体面、風評を恐れず己のスジを通し抜いた人。希有な読書人。

今、改めて皆で読み返したい本です。

### 【ほとんど人力】 小学館

菅原文太著 ISBN-13: 978-4-09-388290-3 1,500円+税

対談相手は：金子兜太(俳人)、樋口陽一(憲法学者)、堀田力(弁護士)、相場英雄(作家)、大石又七(第五福竜丸元乗組員)、中村哲(ペシャワール会現地代表)、大田昌秀(元沖縄県知事)、丹羽宇一郎(前駐中国大使)、副島隆彦(民間人国家戦略家)、古賀茂明(元経産省)、松島令(作家・経済評論家)、関野吉晴(探検家・医師)、野口勲(野口のタネ代表)、西部邁(評論家)、黒田征太郎(イラストレーター)、吉田敏浩(ジャーナリスト)、鳥越俊太郎(ニュースの職人)。

<所属事務所コメント全文>

映画俳優 高倉健は、  
次回作準備中、体調不良により入院、治療を続けておりましたが、  
容体急変にて11月10日午前3：49都内の病院にて旅立ちました。  
生ききった安らかな笑顔でございました。

病名 悪性リンパ腫  
「往く道は精進にして、忍びて終わり悔いなし」  
83歳の命を全う致しました。

治療に携わって下さいました病院スタッフの皆様から  
温かい涙とともにお見送りを戴き、故人の遺志に従い、  
すでに近親者にて密葬を執り行いました。

これまで、お励まし戴きました皆様、  
心より深く感謝申し上げます。  
有難うございました。

今は、お一人おひとりの心の中に宿る故人の笑顔に、  
静かに祈りを捧げて戴けますことを願っております。

尚、勝手ではございますが、  
供花、供物などご遠慮させて戴きますこと、  
あわせてご了承下さいますようお願い申し上げます。

合掌

2014年11月18日

高倉プロモーション